

Title	【定年退職教授の履歴および主要業績】 Robert Scott North教授
Author(s)	
Citation	大阪大学大学院人間科学研究科紀要. 47 p.295-p.299
Issue Date	2021-03-08
oaire:version	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/79082">https://hdl.handle.net/11094/79082</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

## 【定年退職教授の履歴および主要業績】

Robert Scott North 教授



## Robert Scott North 教授

- 1980 年 9 月 カリフォルニア大学バークレー校歴史学科卒業
- 1993-1994 年 同志社大学社会福祉学部交換大学院生
- 1994 年 5 月 ハワイ大学マノア校ハワイ・アジア・太平洋研究科修士号取得
- 1997 年 10 月 富山大学人文学部外国人研究者
- 1999 年 1 月 カリフォルニア大学バークレー校労働家族センタープレドクター・フェロー
- 2002 年 10 月 大阪大学大学院人間科学研究科助教授
- 2002 年 12 月 カリフォルニア大学バークレー校社会学科博士号取得
- 2007 年 4 月 大阪大学大学院人間科学研究科准教授
- 2009 年 4 月 大阪大学大学院人間科学研究科教授

ロバート・スコット・ノース教授は、1980 年カリフォルニア大学バークレー校歴史学科卒業、1994 年ハワイ大学ハワイ・アジア・太平洋研究科修士課程を卒業、2002 年カリフォルニア大学バークレー校社会学科にて博士号を取得、富山大学人文学部外国人研究者、カリフォルニア大学バークレー校労働家族センタープレドクターフェロー等を経て、2002 年 10 月に大阪大学人間科学研究科助教授に着任、2007 年 4 月同准教授を経て、2009 年 4 月同教授に着任され、長年にわたり人間科学研究科国際交流室長（2012-2020 年）、大阪大学国際交流委員会委員（2016-2018 年）、大阪大学国際教育交流センター教員（2003-2009 年）、大阪大学学部英語コース（現代日本メジャー）コース長（2009-2020 年）などを歴任され、2021 年 3 月 31 日限りで定年退職するものである。

### 教育・研究に関する功績

この間、ノース教授は、人間科学部・人間科学研究科の学生教育と人間科学の学術的發展に多大な貢献を行った。同教授は、日本における労働慣行や家族関係についての調査研究を基盤とし、労働社会学、比較社会学、家族社会学、職業社会学、男性学、日本学などの領域においてすぐれた研究成果を残した。とりわけ、日本における共働き夫婦の実態調査や、過労死問題についての調査研究では、国際的に高く評価される業績を残し、2010 年には雑誌 *Pacific Affairs* の年間最優秀論文賞であるウィリアム・L・ホランド賞を受賞、2011 年に大阪大学の 100 Papers Selection にも掲載されている。近年は、余暇のあり方についての国際比較研究や、働き方改革の実効性についての実証研究においても、国内外に数多くの論考を発表し、政策評価や政策提言においても重要な貢献を数多く行っている。同教授はまた *Asia Times* を初めとして、多くの雑誌・新聞紙上において日本の時事問題について解説と評論、国内外での多くの招待講演、日本語で書かれた学術業績の英訳などを通じて、日本の状況についての世界

への窓口的役割を果たしている。また、国際社会学会の **Research Committee 07** (未来研究) および **13** (余暇研究) で要職を務め、国際的な学術雑誌の編集委員、査読委員として活躍することで、日本の社会学の国際化にも多大な貢献をしている。

ノース教授は、2002 年に大阪大学人間科学研究科に着任以来、理論社会学分野および文化社会学分野に所属し、その間「比較社会学」「国際労働論」の講義、理論社会学、文化社会学分野の学部演習、実験実習、大学院演習などを担当し、多くの学部生、大学院生を育ててきた。これまでに、20 名以上の博士前期課程、後期課程の学生を指導し、多くの学位論文の主査として人間科学研究科の研究者養成にも多大なる貢献をしている。また、大学院生の大半が、欧米からの留学生であり、彼らの多くが母国などで優秀な研究者、専門職人として働くことで、大阪大学の国際的な評価にも大きく貢献してきた。海外からのポストドクター、客員研究員・教員の受入についても熱心であり、大学院生との交流を通じて人間科学研究科の国際化を強く推し進めた。

#### 学内外における功績

学内においては、前述の通り、人間科学研究科および大阪大学全体の国際交流部門においてつねに主導的な役割を果たし、特に欧米からの留学生やまた日本人の欧米への留学の窓口役として大学の国際化に果たした役割はきわめて大きい。2009 年から開始された大阪大学英語コースの設置にあたっては世界各国を訪問し、大阪大学の新しい専門コースへの進学を各国の優秀な高校生に紹介し、その後もプログラムの維持発展に尽力し、人間科学研究科および大阪大学における留学生および英語授業のプレゼンスを著しく高めることに貢献した。

ノース教授は、また日本社会における過労死やワークライフバランスの問題に実践的にも深くコミットし、「過労死を考える家族の会」「過労死防止学会」「民主法律協会」などの団体において活発な社会活動を展開し、人間科学研究科の社会学連携に貢献した。

以上、ノース教授は、大阪大学人間科学研究科と大阪大学のみならず広く日本の学術研究・教育・社会に多大な貢献を行ったものである。

### 主 要 業 績

#### 主要著書

1. Scott North. 2018. Strategies of Leisure in Japan. In Ishwar Modi and Teus J. Kamphorst (eds.), *Mapping Leisure: Studies from Australia, Asia and Africa*, 141-159. Singapore: Springer.
2. スコット・ノース. 2015. 「ワーク・ライフ・コンフリクト問題：男の「性／せい」？」 牟田和恵(編)

『ジェンダー・スタディーズ (改訂版)』 大阪大学出版会、62-79.

3. Scott North. 2014. *Karōshi* Activism and Recent Trends in Japanese Civil Society: Creating Credible Knowledge and Moral Culture. In Patricia G. Steinhoff (ed.), *Going to Court to Change Japan: Social Movements and the Law in Contemporary Japan*, 45-73. Michigan Monograph Series in Japanese Studies Number 77. Ann Arbor: Center for Japanese Studies and University of Michigan Press.
4. Scott North. 2014. Hiding Fatherhood in Corporate Japan. In Marcia Inhorn, Wendy Chavkin, and Jose-Alberto Navarro (eds.), *Globalized Fatherhood: Emergent Forms and Possibilities in the New Millennium*, 53-80. New York: Berghahan Books.
5. Scott North. 2012. The Work-Family Dilemmas of Japan's Salarymen. In Paula McDonald and Emma Jeanes (eds.), *Men, Wage Work and Family*, 17-33. London: Routledge.

他 6 冊

#### 主要学術論文・評論

1. Scott North and Rika Morioka. 2016. Hopes Found in Lives Lost: Overwork Deaths (Karoshi) and Pursuit of Worker Rights in Japan. *Contemporary Japan*, 28(1): 59-80.
2. Scott North. 2014. Limited Regular Employment and the Reform of Japan's Division of Labor. *The Asia-Pacific Journal: Japan Focus*, 12 (15-1).
3. Scott North. 2011. Deadly Virtues: Inner-Worldly Asceticism and Karōshi in Japan. *Current Sociology*, 59 (2): 146-159.
4. Charles Weathers and Scott North. 2009. Overtime Activists Take On Corporate Titans: Toyota, McDonald's and Japan's Work Hour Controversy. *Pacific Affairs*, 82, (4): 615-636.
5. Scott North. 2009. Negotiating What's 'Natural': Persistent Domestic Gender Role Inequality in Japan. *Social Science Japan Journal*, 12 (1): 23-44.

他 34 編